

おし図書館

No.182

発行
おしい図書館
代表
青木 和子
松本市牧の原1-104
TEL 047-311-0886
104-416

えんはく(塩尻市市民交流センター)
見聞記
塩崎俊一

兄弟デュオ「狩人」ならぬ「おしい図書館」の有志5人、特急あずさ9号で冬晴れの長野県塩尻駅に降り立ったのは、前日の狂乱天気の日。2015年12月12日(土)でした。

かなり以前から「訪ねたい！」との思いがつのつていたため、期待に胸ふくらませて駅から10分ほど歩き、全面ガラスのまぶしい建物の入口に、フいに辿り着いた。

迎えて頂いた館長の伊東直登氏から懇切なレクチャーを聴き、この施設が単に図書館だけでなく、子育てや市民活動、シニア活動、ビジネス活動を支援する機能融

合を旨指した事業運営の塩尻市市民交流センターであることを知りました。約5千㎡の敷地に地下1階、地上5階、延床面積1万2千㎡弱の広さとは、再開発事業の複合施設でないとは出来ないと納得しました。

伊東館長は常世田さんの講習で感得して、H.18年に準備会に入り、市長の呼びかけに自ら手を挙げて館長になられた位、話の端々に常世田理念の如き図書館像が現れ、嬉しくなってきた。

設計は、松戸市図書館整備計画審議会委員でもある、東京工業大学准教授の柳澤潤氏。先ず、3階の市民活動、シニア活動エリアから、館長の案内説

明で見学。会議室もガラス張りで中が見え、すべてオープンに見られ見えることで交流の息吹が感じられ、世代間の繋がりも期待出来るそう。

4階はビジネス支援スペースとして、市の商工部門とハローワーク。起業支援の具体として地元のワインもあり、5階のイベントホールも充分活用されていた。そして、いよいよ1・2階の図書館。先ず、ゆったり感に白のコーデイネイトの書架。主人公の本は単なる分類を超えて、来館者のニーズを想定して集中させ、館内で利用者に探索させない仕掛けに先ず感心。地元出身の筑摩書房創立者古田泉氏の業績を大切にされて、その寄贈出版物には緑のラベルを貼っている事にも、その心根に感動。そして、分類別の郷土資料で博物館的役割。また、タイムリーなテーマのイベントで美術館

的な役割を巧まずして演出されているMLA連携のわざ。びっくりにしたのは、新刊雑誌類の殆どを目録に揃えるコーナーの豊富さ。館長は、本になる前のあらゆる分野の最新情報は署名入りの雑誌記事にこそ有ると、理念を話された。

1階は、児童コーナーの横に子育て支援センターがあり、読み聞かせコーナーは、寝ころんで出来るカーペットのしつらえ。

そうそう！3階の市民活動コーナーの独立壁面には新刊到着本の表紙展示で、吹き抜けから見える下の階の図書館への誘いを果たす仕掛け。全く何もかも新しい図書館サービスを目指す実践を見るこゝとが出来た。

この日は、屋上から北アルプスの山々が...なんと穂高連峰も見え、一同大満足の一日でした。
帰途、ふとつぶやいた一言...これは「One for All, All for One」

だなあ」と。ラブビーの精神でも使う言葉だが、この6万7千人の塩尻市民を羨ましく思うくらい、一人でも毎日行きたくなるフリースペースの光景を思い続けていました。



島佳枝

塩尻市立図書館を含む市民交流センター「えんぱーく」を見学し、伊東直登館長に大変丁寧な案内をして頂いた。

塩尻市内は古くからの街並みが残し、東に高ボツ山、北西に穂高連峰を一望できる。低層の建物は、その環境にとけ込むよう、拘って造られた。

人口6万7千人の塩尻市で「えんぱーく」は延床面積1万2千㎡、1階だけで3千2百㎡ある。(注)松戸市は約48万人都市で、図書館本館の延床面積1千9百㎡、5階建ての建物は、一辺が80m

程で間口が広い。南北東の三辺を通うに囲まれ、ガラス張りの内部は自ずと町の人々の視界に入る。1・2階の書架を通うに垂直に設置したことで、利用者が本を選ぶ情景が通りから見える。遮光を考慮して西側は壁。図書館への出入口は2ヶ所。2階には駐車場から雨に濡れずに入館できるバリアフリー専用入口もある。

館内は、広い空間の中に7本の壁柱が、それぞれ必要な向きに、まるで樹が生えている様に天井まで伸びて建物を支えている。20cmの厚みの壁柱が、空間を区切っているし繋いでもいる。建物全体を開放的で明るい雰囲気にしていく上に、町のシンボルに相応しい印象的な構造。柱の片面には白い鉄板が貼ってあり、マグネットでの展示を可能にしている。

建設工事は板囲いをせずに進められたので、市民は完成までをつ

ぶさに見ることが出来た。また、設計前の段階で、行政だけでなく延べ数千人の市民と議論を重ねたことで市民は親近感を持ち、オープン時には大勢の市民が押し寄せた。地階に閉架図書。1階は子育て支援センター、図書館（郷土資料含む）、4つのコート（コーナー）、展示コーナー（3m x 8m）等。全館すべての家具は移動可能で多目的に使える。2階は吹き抜けと広場（広い廊下の様なオープンスペースは58.3%を占め、サークル活動が活発に行われている）、フリーコミュニケーション（自由な学習や読書のスペースで飲食物持込み可）、市民交流センター（事務室と会議室（ガラス張り）で外から見える）、図書館、9畳和室（部屋としての仕切り無し）。

3階は多目的ホール、食育室（料理教室がガラス越しに見える）、音楽練習室（防音完備で若物に大

人気）、会議室等。

4階は商工会議所、ハローワーク、民間オフィス等。5階はイベントホール（町コン等が盛ん）、民間オフィス等。

広い館内は空調にも吸音にも配慮されている。塩尻特産のワインに関するコーナーや、塩尻出身で筑摩書房創設者古田晃さんの寄贈書（筑摩書房の出版物）のコーナーは充実していて目を引いた。また、市民が使えようとするDTPプリンターまでも設置！

松戸にも、こんな素晴らしい図書館を！との思いで帰りました。

第2回

公共施設マネジメントワークショップ

報告 青木和子



12月15日(火)AM9時、市役所集合。午前中は新松戸地区と東松戸地区を市のバスで巡回し、徒

歩での現地視察。（参加者10名）

新松戸市民センターと青少年会館は内部を視察。新松戸中央公園や周辺を徒歩で見て回りました。手狭で古いながらも、青少年会館の幅広い活動には敬意を表します。

東松戸地区へ移動。短時間だったが、東部市民センターを視察。市役所へ戻り、午後は中央保健センター会議室で2つのグループに分かれて話し合い。

視察から見えた良い点・悪い点をメモにして地図上に貼りつけ、一冊で分かるようにし、各グループからまとめた発表をしました。

「高齢者が生き生きするまち」「子どもが楽しいまち」を目指すまちづくりにおいて、市有財産である公共施設は「市民の持ち物」、「松戸という大家族の資産」であり、「20年30年先（孫の世代）を見据えた議論を」という共通認識のもとでのグループワークでした。

松戸市図書館整備計画審議会

報告 青木和子

2016年1月29日(金)、これまでの審議を踏まえて「松戸市図書館整備に係る提言案」と松戸市図書館整備計画の実現に向けて「」が事務局から示されました。

委員からは「これまで話し合ってきた事が反映されていない。審議会で話し合いを重ね、パブコメで市民の意見を聞いて出来上がった。せっかくの整備計画が宙に浮いてしまったのではないか。」市民参加を大きく取り上げるべき。徒歩圏に在る沢山の分館は松戸の強み。中央館と分館の連携は縦ではなく、全市的に繋がるアメーバの様なイメージで「図書館機能の相関図」に示す方がよい。などの意見が表明されました。

新しい松戸市図書館の目指す図書館像①「知」と出会い、人と

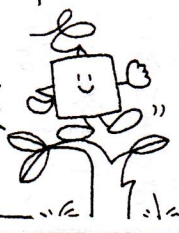
人をつなぐ図書館 ②「くらし」や「仕事」に役立つ図書館 ③「まつど」の歴史や文化を伝える図書館 ④本を通じて、子どもを育む図書館 ⑤思い思いに過ごせる、広場のような図書館 ⑥自ら学び、行動する図書館
の具体的な形を、新しい松戸市立図書館像として、分かり易い図で示すことも要望されました。2月13日(土)には、手直した提言案が示されました。それを更に委員と事務局とが連携してまとめ、最終的に3月には提出されるということです。

最後に、鈴木生涯学習部長からの「図書館整備は計画に止まらず、現実に形にしたい。審議会は今回で終わるが、委員の方々には今後ともお力添えをお願いしたい」との挨拶で締めくくられました。私たちが市民としては、この様

な素晴らしい審議会を傍聴できたことを幸せに思います。2年間にわたり真摯な議論を重ねて下さった委員の皆様へ感謝申し上げます。そして、この計画が現実に「形」となる日を待ち望んでおります。長い間ありがとうございました。

本郷谷市長と面談

報告 青木和子



2月5日(金)、会員3名で市長室を訪ね、面談しました。中川図書館長が同席されました。

松戸駅東口の公共施設整備計画や、東松戸駅周辺の整備計画、そして未来の松戸市の図書館について、先前面談させて頂いた伊藤教育長と同様に、前向きで希望が持てるお話を伺えたことを大変嬉しく思いました。